Press Release

経済産業省
東北経済産業局

2025 年 9 月 26 日
東 北 経 済 産 業 局

地域の DX 化へ一歩　企業と専門学校生の共育プロジェクト始動！

東北経済産業局（以下、当局という）及び盛岡市、秋田市は、地域課題などを基に新たな価値を生み出す企画を立案し、デジタルトランスフォーメーション（以下「DX」という）を誘引する取組を次々と創出するために、地域企業が地域のIT・情報系専門学校との連携によりバックキャスト型の DX を実現するプロジェクト（以下「地域 DX 共育※プロジェクト」という）を始動します。

※「共に育つ」「共に学び合う」の意味を込めて『共育』としています。

1. 課題と目的

地域における DX 推進に係る施策は、各行政機関において多く展開されていますが、デジタル技術が先行し、開発に膨大な時間や費用がかかるケースや、業務等のデジタル化は増進するものの、トランスフォーメーション（新しい価値や市場の創造など）に繋がらないケースなども散見されます。

これを踏まえ、当局では昨年度より、東北地域における地域課題などから新たな価値を生み出す企画（以下「X 企画」という）を先行して立案し、その価値の実現に必要な最小限のデジタル化を行うことで、早期に社会実装するバックキャスト型の DX モデルを創出する取り組みを行っています。

その一環として、「X 企画」の基となる地域企業の課題や展望を踏まえ、地元専門学校生がこれらの課題に対応したデジタルツールを開発し、地域創生に貢献する「地域 DX 共育プロジェクト」を始動します。

（参考）2024 年度実施事例：炊き出しネットワークアプリの公開について～地域×飲食×災害でバックキャスト型の DX を創出～

2. 概要

本プロジェクトでは、地域企業と専門学校生が共に成長し、学び合いながら DX を実現することを目指します。

盛岡市、仙台市、秋田市の 3 市において、地域企業の課題や展望などを踏まえ、地域企業と自治体、当局が連携して「X 企画」を立案し、その企画案に基づいたデジタルツールを、地元のIT・情報系専門学校生が開発します。開発されたデジタルツールは専門学校から地域企業に移譲し、社会実装へとつなげます。

なお、今回基礎自治体と連携し社会実装することで、当局で昨年度実施したバックキャスト型の DX 事業のノウハウを移転し、横展開を図るものです。

3. 参画者及びテーマ

行政機関	地域企業	専門学校
テーマ：書店をデジタルで守るプロジェクト「“文庫 X”を生んだ本の街・盛岡市で、本好きと子どもたちをつなぐファンサイト開発（仮）」		
盛岡市	株式会社盛岡書房 株式会社さわや書店	学校法人龍澤学館 MCL 盛岡情報ビジネス＆デザイン専門学校
テーマ：雪国農家とタイヤ屋さんをつなぐ「タイヤ交換繁忙期に助っ人募集！スポット求人アプリの開発（仮）」		
秋田市	株式会社コニシタイヤ	学校法人コア学園 秋田コア ビジネスカレッジ
テーマ：地方創生のための真のニーズを把握する「シャッターを利活用！？なんでもアンケートアプリの開発（仮）」		
東北経済産業局	株式会社テクノ東北	学校法人滋慶学園 仙台デザイン＆テクノロジー専門学校

4. スケジュール

・9 月～10 月頃　開発ツールの要件定義
・10 月～12 月頃　プロトタイプ構築
・2 月頃　発表会

5. お問い合わせ先

ご不明点や詳細な質問がございましたら、以下の窓口までお問い合わせください。

窓口	電話	E-MAIL
盛岡市　商工労働部 ものづくり推進課	019-626-7538（直通）	monozukuri☆ city.morioka.iwate.jp
秋田市　産業振興部 企業立地雇用課	018-888-5731（直通）	ro-inbl☆city.akita.lg.jp
東北経済産業局　情報政策・半導体戦略室	022-221-4895（直通）	bzl-thk-joho☆meti.go.jp

※【お願い】上記「☆」を「@」に変更してください。

（本発表資料のお問合せ先）
東北経済産業局地域経済部　情報政策・半導体戦略室長　井元
担当者：浦、岸野
電話：022-221-4895（直通）